

学習評価 FIRST STEP ―小学校国語科―

1 学習評価は何のため？

学習評価の目的は、児童の資質・能力を育成することです。児童の学習状況を適切に見取り、児童の学習改善や教師の指導改善に生かすことが大切です。



2 学習評価の考え方

(1) 評価の観点とその趣旨

育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえ、以下の3つの観点で評価を行います。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

(2) 「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係

「内容のまとまり」

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと

「評価の観点」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

【知識及び技能】は「知識・技能」、【思考力、判断力、表現力等】は「思考・判断・表現」と対応しています。



(3) 観点ごとの評価規準作成のポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基本的に、当該学年で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、その文末を「～している。」として、評価規準を作成する。 ・育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。	・基本的に、当該学年で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、その文末を「～している。」として、評価規準を作成する。 ・育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。 ・評価規準の冒頭には、当該学年で指導する一領域を『（領域名）』において、と明記する。 例 『「読むこと」において、』	・各学年の「目標(3)」(学びに向かう力、人間性等)を参考にしつつ、必要に応じて、「評価の観点及びその趣旨」を用いて、評価規準を作成する。 ・粘り強い取組を行おうとする側面と自らの学習を調整しようとする側面を踏まえ、当該単元で育成する資質・能力と言語活動に応じて文言を作成する。 ・文末は「～しようとしている。」として作成する。

※指導事項に示された資質・能力を確実に育成するため、基本的には、「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準になる。

3 学習評価の機能

○指導に生かす評価

児童一人一人の学習状況を把握し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと

※【指導に生かす評価】の場面は、随時存在します。児童の学習改善や教師の指導改善のために、児童の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、日々の授業の中で必要な指導を適宜行います。

○記録に残す評価

観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと

※毎回の授業において、【記録に残す評価】を行う必要はありません。児童全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。単元のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童の観点別学習状況を把握し、記録します。

4 単元ごとの学習評価について

Step1
単元で取り上げる指導事項の確認

単元名「物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう」

教材名「たずねびと」(光村図書5年)

指導事項(C「読むこと」)

◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。C(1)エ

◎文章をまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。C(1)カ

Step2
単元の目標と言語活動の設定

単元の目標

○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。

【知識及び技能】

○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを

「学びに向かう力、人間性等」

伝え合おうとする。

※言語活動の設定については、「単元デザイン FIRST STEP」を御参照ください。

Step3
単元の評価規準の設定

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、繰り返し使われている言葉、行動や情景、心情を表す言葉に着目して使っている。(1)オ)	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	①進んで、人物や物語などの全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりして、学習課題に沿って、自分の考えを伝えようとしている。 ※__部…粘り強さ ※__部…自らの学習の調整

「(3)観点ごとの評価規準の作成のポイント」を参考にしましょう。



Step4
単元の指導と評価の計画の決定

単元の計画と評価の計画(全6時間)

次 時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一 1	○単元扉を読み、題名などからどのような物語が想像する。 ○全文を通読して感想をもち、単元の学習課題を設定し、学習計画を立てる。	・単元扉や題名から想像したことをまとめ、学習の見通しをもつことができるようにする。 ・物語に関連した資料を電子黒板で提示し、内容の大体を捉えられるようにする。	【知識・技能①】 ワークシート ・繰り返し使われている言葉、行動や情景、心情を表す言葉に着目して使っているかの確認。
二 2 本時	○場面ごとに、「綾」が出会ったものや人を表に整理すること、内容全体の共通理解を図り、心情について考える手掛かりとなるようにする。	・「綾」が出会ったものや人を表に整理すること、内容全体の共通理解を図り、心情について考える手掛かりとなるようにする。	
3	○広島に着いてからの「綾」の心情の変化を捉える。	・行動や情景、心情描写などの言葉や表現に着目させ、「綾」と自分を重ね合わせて読ませる。	
4	○最後の場面について表現に注意して読み、物語の全体像を捉える。	・物語の全体像を捉えるために、最後の場面を中心に、心情を表現する言葉に着目して読ませる。	【思考・判断・表現①】 ワークシート・観察 ・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしているかの確認。

児童の学習状況を捉えるための評価【指導に生かす評価】及び、それに基づいた指導は行いますが、【記録に残す評価】は行わない時間も考えられます。

それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況(B)、「努力を要する」状況(C)への手立てを想定します。



学習評価の詳細については、佐賀県教育センターHP「学習評価の進め方」を御参照ください。

